

本の扉

7月号

2023年7月18日

前橋東高校 図書委員会
3年5組

楽しかった文化祭、定期テストが終わり、7月がスタートしました。日々暑さが厳しくなり、夏本番へ向けて一直線。1学期終了まで残りわずか！！ まだまだ厳しい暑さが続きますが、図書室で静かに読書でもして、暑い夏を乗り切りましょう！



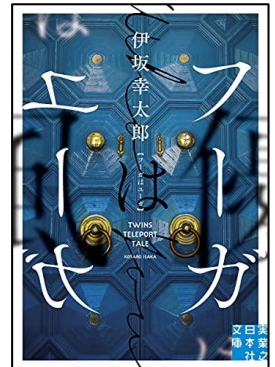
おすすめの本 紹介コーナー

今回は一気に5冊を紹介します

1 『フーガはユーガ』 著者:伊坂幸太郎

ファミレスで高杉という男に向かって、常盤優我が今までの人生について語っている。双子の弟・風我のこと。幸せでなかった子供時代のこと。そして、彼らの誕生日にだけ起こる不思議な「アレ」のこと。2人は可哀想なほどに貧乏で不運だったけど、助け合いながら強く生きてきた。成長するにつれて色々な人と出会い、彼らだけが持つ特別な能力を武器に、邪悪な存在に立ち向かっていく――。

クライマックスでは、冒頭から散りばめられていた伏線が次々と回収されていき、ラスト数十ページの疾走感は圧巻です。最後の「アレ」が起こるシーンは鳥肌が止まりません。切なすぎる結末に心が痛みますが、勇敢に立ち向かっていく2人に引き込まれます。興味のある人はぜひ読んでみてください。



2 『時給三〇〇円の死神』 著者:藤まる

ある日、高校生の佐倉真司は同級生の花森雪希から時給300円の「死神」のアルバイトに誘われる。曰く、「死神」の仕事とは、成仏できずにこの世に残る「死者」の未練をはらし、あの世へと見送ることらしい。あまりに現実離れした話に、不審を抱く佐倉。しかし、「最後まで勤め上げれば、どんな願いも叶えてもらえる」という話を聞いて、半信半疑のまま死神のアルバイトを始めることとなり――。

タイトルに『死神』とあり、重い内容に思われるかもしれませんが、とても後味の良いストーリーになっています。切ないけど温かい物語をぜひお楽しみください。



3 『君は月夜に光り輝く』 著者:佐野徹夜

大切な人の死から、なげやりに生きてしまっている高校生・岡田卓也。月の光を浴びると体が淡く光ってしまう、不治の病「発光病」にかかった余命わずかのクラスメート・渡良瀬まみず。

ある時、まみずに死ぬまでにしたいことがあると知り、それを卓也が「代行」することに……。ここから2人の新しい物語がはじまる……。

当たり前じゃない日々の大切さや自由に自分の好きなことができる幸せをこの2人が読者の私達に伝えてくれます。ぜひ読んでみてください！



4 『いつか、眠りにつく日3』 著者:いぬじゅん

思い出せば、もっと悲しくなる——。それでも、君を忘れたくない。

突然、自分の死を告げられ、受け入れることができず未練解消から逃げてばかりの七海。そんな七海を励ましたのは新人の案内人のシロ。シロと一緒に未練解消を進めるうちに、大切な誰かの記憶を忘れていることに気づく。しかし、その記憶を取り戻すことは、切ない永遠の別れを意味していた……。

この本は『いつか、眠りにつく日』の3作品目です。1、2作品目ともとてもおすすめですが、この3作品目は、特にラストが予想外なので感動します。衝撃的な展開に驚き、読者は良い意味で騙されます。ぜひ手にとって読んでみてください。



5 『手紙』 著者:東野圭吾

武島剛志と直貴は2人きりの兄弟だった。弟の大学進学のお金のために、兄の剛志は空き巣に入り、強盗殺人の罪を犯してしまう。進学、恋愛、就職と幸せをつかもうとする直貴に、「強盗殺人の弟」という運命が立ちちはだかる。ある職場で疑いをかけられた際に、「差別はね、当然なんだよ」と男性に静かに言われ——。

剛志が愛する弟のためにやったことは、逆に直貴の人生をどんどん苦しめていく。

犯罪加害者の家族を真正面から描いている作品です。私達が生きていく社会にはこういった人たちがいるのだと実感でき、その人達がどういう思いで生きているのかがよく分かる作品です。ぜひ読んでみてください。



貸出状況をお知らせします！

貸出統計(6月22日～7月12日)

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計	職員
1年	19	29	46	22	74	-	190	60
2年	31	63	6	15	19	50	184	
3年	23	42	11	13	4	-	93	
						合計	467	527

